

国立音楽大学附属図書館所蔵の ベートーヴェン初期楽譜コレクション その概要および研究意義について （*）

藤本 一子

（*）本稿は1998年6月国立音楽大学で行われた日本音楽学会関東支部例会における発表をもとに、以後の情報をとりこみながら加筆・修正を行ったものである。なお2002年のWeb開示にあたり、僅かな字句修正を行ったことをおことわりしておく。

序

国立音楽大学附属図書館は、世界でも有数かつ貴重と思われるルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770 - 1827年）の初期印刷楽譜のコレクションを所蔵する。ちなみにここでいう「ベートーヴェンの初期印刷楽譜」とはベートーヴェンの存命中および19世紀末までに出版された印刷楽譜をさす。1999年4月に発足した当ベートーヴェン研究部門は、この初期印刷楽譜コレクションの調査・研究を、課題のひとつに掲げた。現在、この楽譜コレクションは学内教員の研究、大学院授業、またこれに類する研究目的に対して開かれてはいるものの、一部を除いて一般公開はなされていない。したがってその概要はもとより、存在自体を知る人も多くはないのが現状である。以下、本稿においてこの楽譜コレクションの概要および研究意義について紹介したい。

．コレクションの概要

1) 収集経緯と楽譜の数

これから紹介する「ベートーヴェンの初期楽譜コレクション」は国立音楽大学附属図書館においては「貴重楽譜」として分類されており、特定の名称はつけられていない。ここでは便宜的に「国立音楽大学ベートーヴェン・コレクション」あるいは「K ベートーヴェン・コレクション」と略称することとする。

さて「国立音楽大学ベートーヴェン・コレクション」は、総数1313点を所蔵するベートーヴェンの初期印刷楽譜のコレクションである。これらは系統的な見通しのもとに一括収集されたものではない。最も早い購入は1970年頃。古書楽譜商ハンス・シュナイダー社およびヨアヒム・シュタル社などから、78点のベートーヴェン初期印刷楽譜を購入した。本格的な収集の端緒が与えられたのはそのあとの1983年、日本を代表するベートーヴェン

研究者、児島新氏が亡くなられた際に、ご遺族により児島氏所蔵の楽譜資料および文献が国立音楽大学に寄贈されたことによる。「児島コレクション」の中には「初版楽譜」を含むベートーヴェンの初期楽譜 153 点が含まれていた。この貴重な楽譜を生かすべく、以後の収集が開始された。その意味では、児島氏の遺志が同大学図書館のベートーヴェン・コレクションを促したともいえる。やがて 1989 年にハンス・シュナイダー社から 767 点という多数の初期楽譜を購入。同年、その内容を補充するためにフェルスター社から 151 点、さらにハンス・シュナイダー社から 55 点を購入。ここに合計ほぼ 1300 余点からなる膨大かつ貴重なベートーヴェン初期印刷楽譜のコレクションが成った。

このうち初期に購入した楽譜、および児島コレクションからの楽譜の計 231 点については、同大学附属図書館刊行の目録『19 世紀の印刷楽譜』に収載され、すでに完全公開がなされている。それらを含めた「ベートーヴェン初期印刷楽譜」全体の所蔵目録は、2001 年初めの刊行をめどに、目下、大学図書館において作成中である。英文表記のこの目録が刊行されれば、楽譜は全面的に公開されることになる。(* 当研究年報刊行後、『ベートーヴェン初期印刷楽譜目録』は当「音楽研究所ベートーヴェン研究部門」から Web 刊行されることとなり、2002 年 3 月に英語版が開示された。)

2) コレクションの内容と特色

「K ベートーヴェン・コレクション」を年代別にみるなら、ベートーヴェン存命中 (1770 - 1827 年) に出版されたものが 566 点、ベートーヴェン没後 19 世紀末までが 747 点となる。存命中の出版楽譜が重要であることはいうまでもないが、近年は作品の受容に関する関心がとみに高まってきている。その資料として作曲家没後の出版楽譜が不可欠であることはいうまでもなく、これほど多くの資料を所蔵している意義は、いくら強調されても過ぎることはない。

ジャンル別ではおおよそオペラ 43 点、交響曲 165 点、協奏曲 53 点、そのほかの管弦楽曲 45 点、室内楽曲 444 点、ピアノ・ソナタ 253 点、そのほかのピアノ曲 129 点、歌曲 59 点、ミサ曲 18 点、劇作品 36 点、合唱作品 12 点、そのほか『総目録』で付録 Anh. に収められている作品 11 点。そして曲集 (たえばピアノ・ソナタ集など) 36 点ほかとなる。ここには編曲楽譜も多く含まれている。これについては後で簡単に触れたい。

最大の特色は所蔵点数であろう。全体数もさることながら、主要作品の楽譜数の多さが目をひく。たとえばベートーヴェン初期の人気作品《7 重奏曲》作品 20 については、種々の編曲を含む 24 点の楽譜を所蔵。また 3 つの稿で知られるオペラ《フィデリオ》関係では台本、序曲を含めて 43 点もの資料を有する。

さらにコレクションの価値を高めているのは、その数に応じた楽譜の多様さであろう。「初版楽譜」、さまざまな種類の「後続楽譜」、さらにそれらの「異刷り楽譜」を多数所蔵し、目録記載上はほとんど同一だが、実体が異なる楽譜も複数みられる。結論を先取りし

というならば、この楽譜の多様さこそ、同コレクションを意義深いものとしているのである。

ちなみにこのことは、購入の経緯に由来している。上に述べたように、K コレクションは一括して系統的に購入したものではなく、寄贈楽譜を基に補充・拡大したものであり、その過程で楽譜の重複が生じた。それゆえに“巧まずして”種々の楽譜が収められることとなったのである。

いま述べた楽譜の種類について少し詳しく述べておこう。資料価値の見地からみるならば、一般的には「初版楽譜」が最も貴重とされる。ベートーヴェンの場合、楽譜作成は「自筆楽譜 写譜師による印刷底本用楽譜 作曲家自身による校正 初版（場合によって修正） 初版の異刷り 後続楽譜」といったプロセスをたどり、「初版楽譜」は作曲者の意図を忠実に反映した確率が最も高いからである。同コレクションは「初版楽譜」を（「異刷り」を含めて）117点所蔵する。その内容は後記する。

さてベートーヴェンの楽譜は1度の印刷で完全なものとなったわけではない。刷りを重ね、訂正を重ねておそらく作曲者が意図したものに近づいていった。そのことはベートーヴェンが出版社に宛てた多数の手紙が示している。それらの多くに、誤植についての抗議が記されており、トラブルはほぼ日常的であったと想像される。《弦楽五重奏曲》作品29の場合など裁判に及ぶほどであった。これらからわかることは、「初版楽譜」が重要であることはいうまでもないが、ときに「後続楽譜」が重要な場合もあるということだ。しかも「初版楽譜」に関する情報は多いが、「後続楽譜」や各版の「異刷り」は紹介されることが少なく、個々の事例にあたってはじめて実際を知ることができる。K ベートーヴェン・コレクションが「後続楽譜」を数多く所蔵していることの意義はこの点でも大きい。

同コレクションは、目録記載上は同じとみられる楽譜を複数、所蔵している場合があると述べた。これについて例をあげるなら、たとえば《アデライーデ》第2版の楽譜を3点有する。これらは購入の過程で、偶然に重複してしまったものである。3つの楽譜は目録情報としては同一であっても、詳細に比較した結果、同じ刷りの楽譜ではないことが判明した。系統的でない入手方法のたまものというべきだろう。

このようにK コレクションは「初版楽譜」およびその改題版、後続楽譜およびその改題版、編曲楽譜、その後続版、それら各版の異刷りなどを、多様に所蔵する。これはベートーヴェン楽譜研究においては驚嘆に値する資料宝庫といってよく、おそらくは、ポンのベートーヴェン・アルヒーフ、アメリカのサンノゼ州立大学のベートーヴェン研究センター、オーストリアの国立図書館ホーボーケン・コレクション、ミュンヘンのバイエルン国立図書館などに続くものだろう。

3) 国立音楽大学ベートーヴェン・コレクションから - 事例紹介

それでは K コレクションから興味深い楽譜の例をいくつか、点描的にあげてみたい。

【 】は附属図書館の所蔵番号である。

(1) 初版楽譜

これについては所蔵するすべての楽譜をあげておきたい。別掲資料「初版楽譜所蔵リスト」をごらんいただきたい。作品名の表記は『総目録』(キンスキ=ハルム)による。()内は目録作成者による英文注記である。なおこのリストの中には、「初版楽譜」の「異刷り」も含まれていることをおことわりしておく。

(2) 交響曲の編曲楽譜

楽譜内容の点で最も関心をひくもののひとつに「編曲楽譜」がある。当時は大編成の管弦楽曲を聴く機会などそう多くはなかったから、人々は狭い空間で“室内楽編成の交響曲”を楽しんでいただろう。そうしたことについての手がかりを与えてくれるのが編曲楽譜である。それらのうちにはベートーヴェン自身が関与した編曲もあれば、自らは関与せず、出版社側が勝手に編曲・出版した例もある。後者についてベートーヴェンは激しい抗議の手紙を送ったりもするのだが、いずれにせよ、編曲楽譜の実際をみることは、われわれにとって、重要な課題となる。

さてKコレクションは編曲を含めた交響曲の楽譜をどの程度所蔵しているのだろうか。またそれらは他の図書館においても所蔵されているものだろうか。Kコレクションの質的なレベルをはかるために、重要と思われる編曲楽譜を他の図書館所蔵楽譜と対照させてみた(1998年時の調査に基づく)。資料2「全交響曲、作品123、作品124の1830年頃までの初期楽譜所蔵リスト」を参照されたい。他の所蔵機関名については以下のように略記した：H = オーストリア国立図書館ホーボーケン・コレクション、BSB = バイエルン国立図書館、BL = プリティッシュ・ライブラリー。

Kコレクションは全ての交響曲について初版楽譜を所蔵するわけではないが、たとえば交響曲第2番の「管楽9重奏版」など興味ある編曲楽譜を所蔵している。これらの編曲楽譜を実際の演奏に生かすことにより、ベートーヴェンの作品受容研究に新しい視野が開けることが期待される。

(3) 改題版

改題版 Titelaufgabe とは、楽譜の本文テキストはそのままに、表紙ページのみを一新した版をいう。この場合、興味をひくのは記載内容の変更である。最も多いのは値段の変更だろう。しかし、まれに本文テキストにも修正が施されている場合がある。誤植の訂正などがおもなものであるが、これによって、どの段階で“正しい楽譜”が作成されていたかを知る手がかりが与えられることがある。表紙が改変された理由はさまざまである。人気曲であったため印刷を重ねるうちに表紙のプレートが磨耗した例、逆に売れ行きが悪

くて表紙を一新した例、著作権が移譲されて表紙のみ改変した例、値段を変更した例など。いずれも作品受容のあり方を知るために好適の材料となりうる。代表的な事例として交響曲第5番のスコア初版とその改題版をあげておこう【S12-434】【S11-984】

(4) 異刷り - 《ヴァルトシュタイン》ソナタ作品53を例に

異刷り Variant とは、版全体としてはそのままだが、ごく一部がなんらかの理由によって改変された楽譜をいう。ただし改変について、それと購買者に知らせないか、むしろ元のイメージ内で作成していることが特徴である。理由は、やはり、さまざま。プレートが磨耗したために表紙のプレートのみそっと差し替える。あるいは本文テキストの誤植を修正しておくなどである。表紙のプレートを大々的に一新しない背景には、元の表紙イメージを壊したくない理由がある。人気作品の場合などはこれにあたる。そうした例として《ヴァルトシュタイン》作品53初版の表紙をあげよう。

この作品の初版楽譜は、数多く確認されているが、それぞれ微妙に表紙が異なっており、いずれが早い出版なのかが問題にされてきた。ヴァインホルト(参考文献 Weinhold)は、ベートーヴェンの初期楽譜に関する論考の中で、「初版」として以下の楽譜を報告している。「リュウベック図書館所蔵」「ベートーヴェン・ハウス所蔵」「ホーボーケン・コレクション所蔵」「その他」。ヴァインホルトはこれらの楽譜の印刷順序を推定するにあたり、表紙デザインの精巧度を判断基準としたが、最終的な決めてを欠いていた。K コレクションは初版楽譜を2点所蔵しており、じつはその比較からここに解決を与えることができた。ヴァインホルトも結論を出しかねたその2点【S11-920】【S11-921】をごらんいただきたい(図版参照)。2つの表紙は、一見してデザインが同じイメージのまま作成されているものの、微妙に変更されていることがわかりいただけるだろうか。明らかな特徴として、表紙プレートの「ひび割れ」があげられる。は「ひび割れ」が目立ち、にはこれがみられない。しかしひとたびページを追ってゆくと、の楽譜プレートは「ひび割れ」の状態が若い、ではむしろ同じ個所でさらに「ひび割れ」が進展している場合がみられる。これらの事実から次のように推測することができるだろう。2つの楽譜は基本的に同じプレートを用いた「異刷り」楽譜である。前者のプレートが磨耗したため、後者で楽譜ページの「ひび割れ」はそのままに、表紙のみわずかに改変して差し替えた。表紙と楽譜内部の「ひび割れ」の度合いが一致しないのは、以上の理由によって説明がつく。したがって順序としては後者があとの印刷であろう。人気作品ゆえの現象であろうか。ちなみに紙質に関していえば、は「すかし」入り、は「すかし」なし。ただし「すかし」の有無が印刷順序の判定において有力な決めてとなるかどうかは、微妙である。このように時期が接近した場合においては、難しいといわざるをえない。

(5) 後続楽譜

Kコレクションから3つの作品を例に、後続楽譜Nachdruckの重要性についてのべよう。事例として《ゲレルトによる歌曲集》作品48、《友情の幸福 Das Glück der Freundschaft》作品88、弦楽五重奏曲作品29をとりあげよう。

《ゲレルト歌曲集》作品48は、ゲレルトの詩集からベートーヴェンが6つの詩を選んで歌曲集としたもの。従来は、各曲1節の詩からなる緊張感のある歌曲集として知られてきた。しかし『新全集』は、当時の筆写楽譜の状況から、各曲とも有節歌曲である可能性を示唆した。出版楽譜としては「初版」(モロ社1803)、「第2版」(ジムロック1803年)、「第3版」(ホフマイスター&キューネル社1803年)が基礎資料としてあげられる。3つの出版楽譜は、それぞれ曲順と歌詞詩節のつけ方が異なる。「初版」は1詩節のみ。従来知られている形だ。「第2版」は筆写譜を反映して有節歌曲。「第3版」もこれに続く。1990年に出された『新全集』は後続楽譜を評価し、有節歌曲とした。

《人生の幸福》作品88では、作品タイトルと歌詞に関する問題が起こった。この歌曲は1803年春-10月作曲。『新全集』は「初版」(レッシエンコール1803年)「第2版」(ジムロック1803年)【S12-096】、「第3版」(ホフマイスター&キューネル1803年)【S12-095】を重要資料とする。「初版」はドイツ語、「第2版」もドイツ語、「第3版」はドイツ語とイタリア語が付されている。弟子リースによれば、ベートーヴェンは「初版」のタイトル(《友情の幸福》)と歌詞が誤っているのを正すようと、リースに正しい歌詞を送ってきた。しかし「第2版」(ジムロック)はその時点ですでに版刻を了えており、かたわらで出所不明ながらホフマイスターからベートーヴェンが修正したものとほぼ同じタイトルと歌詞をもつ楽譜が出版された(「第3版」)。ここにはイタリア語も付けられていた。「第3版」の音符は「第2版」と同じ。ただし「初版」とは異なる個所がある。この歌曲をめぐる状況は複雑だが、結論を述べるなら、「初版」の音符と「第3版」のタイトル・歌詞がベートーヴェンの意図したものであると判断される。後続楽譜が見逃せない、よい例である。

《弦楽五重奏曲》作品29の場合は、ブライトコプフ&ヘルテル社が初版を準備しているうちに(1802年末)、いつの間にか版下が(おそらく)盗用され、アルタリア社から誤植の多い楽譜が出された(1803年)。のちに「ベートーヴェン自身の修正」と銘打って改訂出版がなされた(1803年)。『総目録』によればアルタリアは、まず版刻番号なしで、ついで版刻番号つきで誤植ページだけを差し替えて印刷し直した。Kコレクションはこの作品のブライトコプフ版【S11-830,831】(2点は値段の表記方法が微細に異なるが内部は同じ)とアルタリア修正版【S11-833版刻番号つき】を所蔵する。両者を比較してみると、アルタリアが急遽ページを差し替えたあとが明らかだ。美しいブライトコプフ版と劣悪なアルタリア版をみると、当時の出版技術の状況を目の当たりにする思いがある。

(6) 初版楽譜またはその改題版の表紙ヴィグネット

印刷楽譜の場合、通常は本文テキストに関する比較検討が研究対象とされるが、表紙そのほか視覚的な事例も興味深い。これらは実際の楽譜に即してみても、豊かなイメージがえられる。またまったく同じ種類の楽譜であっても、プレートの磨耗度によって外観の印象が異なる。こういったプレート磨耗の観点から印刷部数の多寡を推定する手がかりがえられることもある。

K コレクションはベートーヴェンの印刷楽譜のうち、最も精巧で美しい表紙をもつことで知られる3つの楽譜、すなわち《ヴァイオリン・ソナタ》作品96の初版【S12 - 136 ,137 , 138】、《遙かな恋人によせて》作品98の初版（改題版）【S12 - 143】、《フィデリオ》作品72のピアノ・ヴォーカルスコア初版【S12 - 015】を所蔵する。とくにリトグラフが見事とされる作品96については、3点を所蔵する。

(7) 被献呈者名の別刷りページ

印刷楽譜では通常、表紙に献呈を受ける人物の名前が記載されるが、ときに別ページを挿入してその名を特別に刷りこむことがある。このような例を《フィデリオ》作品72ピアノ・ヴォーカルスコア(ルードルフ大公)【S12 - 015】など14の楽譜にみることができる。その記載方法など詳細にみてゆくと、楽譜を通しての献呈という一般的な情報に加えて、それぞれの献呈の重みなどをうかがい知ることができる。

(8) 予約者リストの挿入ページ

当時、楽譜が予約出版されたことはよく知られている。この場合、各楽譜には予約者のリストが付されるのだが、私たちがその実際を目にする機会は多くはないだろう。ベートーヴェンの場合、予約者リストが刷りこまれた楽譜として3件が知られているが、K コレクションではそのうち2つの重要な事例をみることができる。ひとつは《フィデリオ》作品72第3稿のスコア初版。オンスロー、プレイエルなど57名の予約者名が刷りこまれている【S12 - 011】。華麗な予約出版楽譜としては《ミサ・ソレムニス》・《第9》・《序曲献堂式》の3作品一括予約出版がよく知られている【S12 - 194】。予約者の名前は『総目録』(キンスキー=ハルム)などを通して知ることはできるが、その壮麗な予約者リストをまのあたりになるとき、この出版にかけた作曲者と出版社の意欲がリアルに迫ってくる。

(9) 広告ページの差込み

出版社が広告を掲載することは当時、さかに行われていた。しかしその内容についての情報はほとんど報告されていないため、事例をみながら網羅的に調査する以外はなさそうだ。これによって作品の知名度、出版社の広告事情などさまざまな情報をえることができるだろう。K コレクション所蔵楽譜では、15点の事例をみることができる。ここではベートーヴェン中期の《交響曲第7番》作品92の五重奏編曲版を例にあげておこう【S12 -

113】。新作の各編曲楽譜の紹介と並んで、オンスローやフンメルが宣伝されている。

(10) ウォーターマーク(すかし)

ところで、実際の楽譜を手にしてはじめて調査が可能になる領域がある。紙質についての研究は、まさにこれにあたるだろう。ベートーヴェンの場合、生前の出版楽譜のほとんどは手漉き紙であり、「簾の目入り laid paper」と「簾の目なし wove paper」にわけられる。さらに上の(3)で述べたように、楽譜の年代順序を推定しようというとき、「ウォーターマーク」(すかし)がポイントになる場合もおこつてこよう。Kコレクションでは1300点のうち約400点に「ウォーターマーク」(すかし)がみられ、そのうち約3分の1が「ゆり」マークに属することが判明しているが、そのヴァリエーションはじつに多彩だ。「ウォーターマーク」は面白い問題を多々含んでいる。これについては別論考(長谷川)を参照されたい。

・ 初期楽譜における「異刷り」ヴァージョンの重要性について

- 《アデライーデ》作品46を比較する

《アデライーデ》作品46は、ベートーヴェン初期の人気歌曲である。マティッソンの詩は1790年の『ムーゼン・アルナナ』誌に掲載され、のちに『マティッソン詩集』に再録された。ベートーヴェンはおそらくこの詩集から詩を選んだとされる。作曲は1795年または1796年とされるが、自筆楽譜は散逸。自筆書き込みのある筆写楽譜も現存せず、“正しい”楽譜の決め手になるのは、現在の段階では印刷楽譜に限られている。

《アデライーデ》は1797年にウィーンのアルターリアから出版され、高い人気をえてまたたくまに多種の後続楽譜が印刷された。ベートーヴェン作品中、最も多くの種類の楽譜が出されたもののひとつであろう。Kコレクションは1830年代までの印刷楽譜のうち9点を所蔵する。これらの楽譜を調査したところ、興味深い事実が浮かび上がってきた。以下、要点を記しておきたい。

1) ヴァインホルト(参考文献 Weinhold)は、ベートーヴェンの初期楽譜についての論考の中で《アデライーデ》に注目した。印刷楽譜の種類がじつに多様で、当時の出版状況を知るために恰好の材料だからである。論考で確認されているのは19種25点の楽譜。一方、Kコレクションが所蔵するのは9点。ヴァインホルトの丹念な追跡にもかかわらず、Kコレクション所蔵楽譜のうち7点までがヴァインホルトのリスト外のものであることが判明している。とりわけハノーヴァーのクルシュヴィツから刊行された楽譜は類似楽譜の報告もない。クルシュヴィツという出版社はKコレクションにみるかぎり他の作品にはあらわれてこない。あるいはマイナーの出版社なのかも知れない。この楽譜は『総目録』に記載はあるものの、『新全集』も参照してないもようである。いずれにせよKコレクシ

ョンにはきわめて珍しい版が含まれていたことになる。

2)『新全集』が校訂資料としてあげている楽譜は「初版」(アルタリア 1797 年 2 月)「第 2 版」(ホーフマイスター & キューネル社 1803 年半ば)「第 3 版」(ジムロック 1803 年末)である。『新全集校訂報告』は第 2 版の歌詞をドイツ語とイタリア語としているが、おそらく誤り。K コレクションは第 2 版について 3 点の楽譜を所蔵するが、いずれもドイツ語、イタリア語、フランス語が付されている。『総目録』やほかの図書館所蔵の第 2 版も、フランス語歌詞が付されていることを伝えている。

《アデライーデ》について、いくつか主な箇所を比較した。所蔵各楽譜の重要点の比較表と譜例 を参照されたい。

譜例 第 4 小節歌唱声部の装飾音形：「初版」は A 音形、「第 2 版」で B 音形となり、これを「第 3 版」が A に修正している。『新全集』は、別の記譜方法 C をとっている。

譜例 下の変ホ音 8 分音符はイタリア語 / フランス語がつけられてから、はじめて書かれたと想像される。すなわちもとのドイツ語歌詞版には書かれていない。現在、ドイツ語歌詞にもかかわらずこの 8 分音符を装飾音風につけて演奏しているディスクが出ているが、イタリア語用の楽譜を誤って用いていると推測される。

譜例 第 9 2 小節のピアノ伴奏右手の分散和音音形：「初版」は 音を a 音としたが誤り。印刷底本がすでに間違っていたか、あるいは次ページにとんだので間違っただのか。「第 2 版」はこれを f 音に修正している。「第 2 版」がこれを間違いと認識したのは、「初版楽譜」に修正が入ったものを持っていたと推測される。あるいはベートーヴェン自身が訂正を行った可能性もある。1802 - 03 年頃のベートーヴェンは、ホーフマイスターと親しくコンタクトをとっていたからである。「第 3 版」は「初版」を踏襲しているが、以後の楽譜はすべて「第 2 版」の修正をとりこんでいる。

譜例 『新全集』の校訂報告を参照してみると、次のことが明らかになる。すなわち新全集は第 100 小節にクレッシェンド・ガーベル(松葉記号)を書きこみ、その校訂報告に「初版にはない」と記載しているが、この記号は K コレクション所蔵の初版の 2 つの改題版、およびジムロックの 3 つの楽譜すべてにみられない。『新全集』がなぜ書き入れたのか、資料上の根拠は不明である。

譜例 第 150 小節の歌唱声部最初の音：「初版」は 2 点 fis 音。「第 3 版」は 2 点 g 音。この音の異同は大切だ。『新全集』は「第 3 版」(ジムロック)以後はそれが踏襲されているので、ジムロック版にならった」としているが、これは正しくない。「第 3 版」以後に出されたカッピ版は、修正して「初版」に一致させた。『新全集』の校訂者は、より多くの版を検討する余地があるのではないだろうか。場合によっては「初版」を生かす可能性が残されているかも知れない。

これら以外にも詳細に比較した結果、次のことが導き出された。K コレクションの「初版」改題版 2 点は同一の刷りではない。すなわち「異刷り楽譜」である。表紙の異同は値

段の有無だけである。値段なしの楽譜の方には、楽譜内部に誤植があり（歌詞のヌケ）、値段付きの楽譜の方でこれが修正されている（そのほかは異同なし）。これによって、これまでよく言われてきたこと、すなわち「楽譜はまず値段なしで出版されすぐあとで値段が付される」という慣習が、これらの楽譜から証明された。またKコレクションの「第3版」3点は2種類の「異刷り楽譜」である。最初の2点はまったく同じだが、第3の楽譜が異なる。第3の楽譜は、プレートの「ひび割れ」が激しいページとそうでないページがあり、その様態から次のことが推測される。つまり、プレートが磨耗して「ひび割れ」がすすみ、その結果、いくつかのページだけプレートを新規に製造した。この際、差し替えページにおいて、前の版にはなかった誤植が多数生じた。

こういったさまざまなことから、ベートーヴェンの正本楽譜をさだめる際には「初版」だけでなく、その「異刷り」や「後続楽譜」が資料として重要な役割をはたすことが、あらためて確認されるのである。

・19世紀後半の楽譜から - 《第9交響曲》作品125。カストナーによる書き込み楽譜

最後にKコレクション所蔵の没後の楽譜から、興味ある楽譜を紹介しておこう。

没後の楽譜は受容史をみる上できわめて重要と思われるものが多い。とくにベートーヴェンと直接、深い関わりがあったチェルニーやモシェレスの校訂によるピアノ・ソナタ全集、あるいは弟子ではなかったがベートーヴェンから強いインパクトをうけたフランツ・リスト校訂によるピアノ・ソナタ全集などがそれで、これらの楽譜資料は、のちの時代がベートーヴェン作品をどのように理解していたかを知る重要な材料となる。

ここでは、ほとんど知られていない楽譜を1点、紹介したい。ライプツィヒとヴィンターツウアーのJ.Rieter-Bidermannから出版されたクリュザンダー編纂の1869年出版の《第9》スコアである【S12 - 199】。興味深いことに、この楽譜には1872年付けでカストナーによる鉛筆の記入がある。それによれば楽譜内の書きこみは、ヴァーグナーが1872年に演奏した楽譜から筆写したとのことである。この鉛筆による書き込みはおもに第2楽章と第4楽章においてみられる。第2楽章の記入はさほど多くはない。注目されるのは、第4楽章だ。カストナーの書きこみによればヴァーグナーはバリトン独唱のレチタティーヴォを一部カットし、また合唱部分でも「Freunde」をおそらく（歌唱声部全体を）まずカット。次の「Freunde」のあと「Freude Schoner」では、{Freude}の歌詞反復をせずにその音符に「schoner」の歌詞だけでメリスマ風に歌わせたということであるらしい（譜例参照）。この楽譜は大変興味をそそられる。詳細に検討することにより、ヴァーグナーの《第9》演奏についての手がかりが得られるだろう。

ほかにも指揮者ベームの手によるR・シュトラウスの序文付きの《交響曲第1番》【プレートは1870年頃 S12 - 551】の楽譜を所蔵する。この楽譜には内部にもベームによる詳

細な書き込みがあり、演奏解釈という点で、ベーム・ファンならずとも興味ひかれることだろう。

結び - コレクション研究の意義と課題

国立音楽大学ベートーヴェン・コレクションは、質量の両面においてきわめて貴重な印刷楽譜コレクションである。上に述べてきたように、初期楽譜の意義は「初版楽譜」にとどまらない。“正しい”オリジナル楽譜の研究において、あるいは、今後のベートーヴェン研究を支えるキーワードである「受容」研究においては、むしろ、「後続楽譜」や「異刷り楽譜」の存在が大きいと思われる。

さて、膨大な初期楽譜資料を前に、われわれの課題は限りなく大きく横たわっている。当面のテーマとしては、「編曲楽譜にみるベートーヴェン作品」「ベートーヴェンのピアノソナタ全集の系譜」などがあがってこよう。これらの課題に対しては、かなりの数の楽譜資料と調査時間が必要とされるため、その重要性が指摘されていながら、研究はなお緒についたばかりといってもよい。おそらくは、あるプロジェクトのもとで、共同研究によって進められることが望ましい。いずれは国際的な研究協力というかたちも視野に入ってくるが、まずは日本において1歩が期待されている。

おもな参考文献

- 1) Ludwig van Beethoven. Erst- und Fruhdrucke. Katalog Nr.289. Musikantiquariat Hans Schneider D8132 Tutzing 1986
- 2) Ludwig van Beethoven. J.Voerster, Antiquariat für Musik und Deutsche Literatur. Antiquariats-Katalog 6.Stuttgart 1989.
- 3) Beethoven. Das Werk Beethovens thematisch-bibliographisches Verzeichnis seiner sämtlichen vollendeten Kompositionen von Georg Kinsky. Nach dem Tode des Verfassers abgeschlossen und herausgegeben von Hans Halm. Henle, München 1955
- 4) Katalog der Sammlung Anthony van Hoboken in der Musiksammlung der Österreichischen Nationalbibliothek. Musikalische Erst-und Fruhdrucke. Band 2:Ludwig van Beethoven. Bearbeitet von Karin Breitner und Thomas Lebnitz. H.Schneider, Tutzing 1983
- 5) Bayerische Staatsbibliothek. Katalog der Musikdrucke. BSB-Musik. K.G.Sauer, München, New York, London, Paris 1989
- 6) The Catalogue of Printed Music in the British Library to 1980. K.G.Sauer, London, München, New York, Paris 1981
- 7) Liethbeth Weinhold, Die Erst-und Fruhdrucke von Beethovens Werken in den Musik-Sammlungen der Bundesrepublik Deutschland und West-Berlins. Verzeichnis und Kommentar. in; Beiträge zur Beethoven-Bibliographie. Studien und Materialien zum Werkverzeichnis von Kinsky-Halm. Herausgegeben von Kurt Dorfmueller. Henle, München 1978
- 8) Beethoven Werke. Abt.XII/Bd.1. Lieder und Gesänge mit Klavierbegleitung herausgegeben. von Helga Lühning. Henle, München 1990
- 9) Beethoven Werke Abt.XII/Bd.1. Kritischer Bericht. Herausgegeben von Helga Lühning. Henle, München 1990
- 10) Beethoven. Briefwechsel Gesamtausgabe. Herausgegeben von S.Brandenburg. Henle, München 1996-1998.
- 11) Alexander Weinmann, Tobias Haslingers “ Gesamtausgabe der Werke

Beethovens ".In:Beitrage zur Beethoven Bibliographie.Herausgegeben von Kurt
Dorfmueller ,Henle,Munchen 1978

資料1 初版楽譜所蔵リスト(目録作成者による提供。1999年末時点。)

作品番号	作品名	所蔵番号	出版年
2	3 Klaviersonaten	S11-660	1796
5	2 Sonaten fur Klavier und Violoncell	S11-689	1797
8	Serenade fur Violine, Bratsche und Violoncell	S11-701	1797
9	3 Trios fur Violine, Bratsche und Violoncell	S11-705	1798
12	3 Sonaten fur Klavier und Violine	S11-723	1799
14-1	Ubertragung der Klaviersonate Opus 14 1 fur Streichquartett	S11-748	1802
15	Klavierkonzert (Nr.1)	S11-751	1801
24	Sonate fur Klavier und Violine	S11-815	1802
25	Serenade fur Flote, Violine und Bratsche	S11-817	1802
26	Klaviersonate	S11-818	1802
29	Streichquintett	S11-830	1802
29	Streichquintett	S11-831	1802
30	3 Sonaten fur Klavier und Violine	S11-840	1803
33	7 Bagatellen fur Klavier	S11-854	1803
34	6 Variationen fur Klavier	S11-855	1803
35	15 Variationen mit einer Fuge fur Klavier	S11-857	1803
35	15 Variationen mit einer Fuge fur Klavier	S11-858	1803
37	Klavierkonzert (Nr.3)	S11-874	1804
45	3 Marsche fur Klavier zu vier Handen	S11-893	1804
47	Sonate fur Klavier und Violine	S11-904	1805
47	Sonate fur Klavier und Violine	S11-905	1805
53	Klaviersonate	S11-920	1805
53	Klaviersonate	S11-921	1805
54	Klaviersonate	S11-922	1806
56	Konzert fur Klavier, Violine und ...	S12-417	1807
61a	Ubertragung des Violinkonzerts Opus 61 als Konzert fur Klavier	S12-429	1808
64	Sonate fur Klavier und Violoncell	S11-675	1807
68	Symphonie Nr.6	S11-993	1809
69	Sonate fur Klavier und Violoncell	S12-002	1809
70	2 Trios fur Klavier, Violine und Violoncell	S12-005	1809
70-2	2 Trios fur Klavier, Violine und Violoncell	S11-487	1809
72	Fidelio (piano score without text)	S12-022	1814
72	Fidelio (score. second impression)	S12-011	1826
75-4	6 Gesange Nr.4 (Allg. musik. Ztg.)	S12-450	1810
77	Fantasie fur Klavier	S12-054	1810
81a	Klaviersonate (french title)	S12-063	1811
86	Messe	S11-438	1812
89	Polonaise fur Klavier	S12-097	1815
90	Klaviersonate	S12-101	1815
90	Klaviersonate	S12-461	1815
91	Wellingtons Sieg oder...	S12-104	1816
95	Streichquartett	S12-132	1816
96	Sonate fur Klavier und Violine	S12-136	1816
96	Sonate fur Klavier und Violine	S12-137	1816
97	Trio fur Klavier, Violine und Violoncell	S12-140	1816
101	Klaviersonate	S12-146	1817
105	6 variierte Themen fur Klavier (German edition)	S12-472()	1819
105	6 variierte Themen fur Klavier (German edition)	S12-150()	1819
105	6 variierte Themen fur Klavier (German edition)	S12-473()	1819
106	Klaviersonate	S12-151	1819

108	25 Schottische Lieder (German edition)	S12-154	1822
113	Musik zu A. v. Kotzebues Festspiel	S12-164	1823
121b	Opferlied (score)	S12-186	1825
121b	Opferlied (piano score)	S12-187	1825
122	Bundeslied(piano score)	S12-192	1825
123	Missa solemnis (score)	S12-194	1827
123	Missa Solemnis(piano score)	S12-196	1827
124	Ouverture	S12-197	1825
125	Symphonie Nr.9 (score)	S12-198	1826
126	6 Bagatellen fur Klavier	S12-206	1825
127	Streichquartett (parts)	S12-212	1826
127	Streichquartett (parts)	S12-203	1826
127	Streichquartett (parts)	S11-440	1826
127	Streichquartett (score)	S12-211	1826
130	Streichquartett (score)	S12-214	1827
130	Streichquartett (parts)	S12-215	1827
130	Streichquartett (parts)	S11-582	1827
130	Streichquartett (parts)	S11-587	1827
131	Streichquartett (score)	S12-490	1827
131	Streichquartett (parts)	S11-583	1827
131	Streichquartett (parts)	S12-216	1827
132	Streichquartett (parts)	S11-584	1827
132	Streichquartett (parts)	S12-219	1827
132	Streichquartett (parts)	S12-220	1827
133	Grosse Fuge fur Streichquartett (parts)	S12-222	1827
133	Grosse Fuge fur Streichquartett (score)	S12-493	1827
134	Fuge fur Streichquartett f. Klavier zu 4 Handen	S12-223	1827
135	Streichquartett (parts)	S12-224	1827
135	Streichquartett (parts)	S12-225	1827
136	Preis der Tonkunst	S12-227a	1837
136	Preis der Tonkunst (parts)	S12-227b	1837
136	Preis der Tonkunst (piano score)	S12-228	1837
138	Ouverture I zur Oper Leonore	S12-230	1828
Wo06	Rondo fur Klavier mit Begleitung (piano)	S11-497	1829
Wo07	12 Menuette f. Orchester (piano score)	S12-496	1795
Wo025	Rondo (Arr. for piano 4 hands)	S12-237	1829
Wo036	3 Quartette f. Klavier, Violine,	S12-238	1828
Wo040	12 Variationen	S12-497	1794
Wo041	Rondo f. Klavier u. Violine	S12-579	1808
Wo045	12 Variationen f. Klavier und Violoncell	S12-241	1797
Wo045	12 Variationen f. Klavier und Violoncell	S12-242	1797
Wo058-1	Kadenz zu Mozarts Klavierkonzert d moll	S12-506	1836
Wo058-1	Kadenz zu Mozarts Klavierkonzert d moll	S12-254	1797
Wo071	12 Variationen fur Klavier	S12-272	1797
Wo073	10 Variationen fur Klavier	S12-279	1799
Wo074	Ich denke dein	S12-281	1805
Wo078	7 Variationen fur Klavier	S12-291	1804
Wo078	7 Variationen fur Klavier	S11-072	1797
Wo078	7 Variationen fur Klavier	S12-292	1797
Wo080	32 Variationen fur Klavier	S12-299	1807
Wo0104	Gesang der Monche	S12-301	1839
Wo0118	"Seufzer eines Ungeliebten" u. "Gegenliebe"	S12-303	1837
Wo0129	Der Wachtelschlag	S12-304	1804
Wo0134	Sehnsucht (original or its Titleaufgabe?)	S12-305	1810
Wo0135	Die laute Klage	S12-303	1837
Wo0136	Andenken	S12-306	1810
Wo0148	So oder so (first as a single work)	S12-311	1817
Wo0185	Edel sei der Mensch, ...	S12-317	1823

資料2 全交響曲、作品123、作品124の1830年頃までの初期楽譜所蔵リスト
[]の図書館には所蔵なし。

交響曲第1番作品21	スコア初版(2点) 編曲版:弦楽五重奏[BSB]、P四重奏[H]、連弾(2種所蔵)
交響曲第2番作品36	スコア初版(2点) 編曲版:管楽九重奏[H, BL, BSB]、弦楽五重奏[H, BL]、P四重奏[BL]、P三重奏、連弾(3種所蔵)
交響曲第3番作品55	スコア初版(3点) 編曲版:P四重奏[H, BSB]、連弾(4種所蔵)
交響曲第4番作品60	スコア初版(1点) 編曲版:弦楽五重奏[H, BSB]、P四重奏[BL]、2台P[BSB]、連弾、独奏P(2点)
交響曲第5番作品67	スコア初版(1点) 編曲版:P四重奏[H, BL]連弾(3種5点所蔵)、独奏P(2点)
交響曲第6番作品68	パート譜初版(1点)、スコア初版(1点)、スコア初版の改題版(1点) 編曲版:P四重奏[H, BL]、連弾(2種所蔵)独奏P
交響曲第7番作品92	パート譜初版の改題版(1点)、スコア第2版(2点)、スコア後続版(1点) 編曲版:初版時にオリジナル楽譜と同時出版された編曲版。弦楽五重奏[H, BL]、連弾、独奏P
交響曲第8番作品93	パート譜初版の改題版(1点)、スコア第2版(2点) 編曲版:初版時にオリジナル楽譜と同時出版された編曲版。弦楽五重奏[H, BSB]。連弾の改題版(2点)
交響曲第9番作品125	スコア初版(1点。予約者リストなし) 編曲版:チェルニー校訂連弾(1点)、カルクブレンナー校訂独奏P(1点)、リスト校訂独奏P(1点)、リスト校訂2台P(1点)
ミサ曲 作品123	スコア初版(1点。予約者リストつき) 編曲版:初版時のピアノヴォーカルスコア第2版(2点)
献堂式 作品124	スコア初版(1点。予約者リストなし)

《アデライーデ》 編例①-⑤

①

A 

B 

C 

② 「初版」



49 rauschen
rauschen
fre mo-no

「イタリア語付きの版」

④

auf jedem Pur-pur Blättchen



100 *f* *fp*
「新全集」のみ

⑤

A 

148 A - (fis) - de - la - i - - - de

「初版」ほか () スラーはホフマイスター、カッピ

B 

149 A - (g²) - de - la - i - - - de

「第3版」ほか () スラーはクルシュヴィツ

カストナーによる鉛筆書き込みのある《第九》

O.
S.
L.
I.



Freude, Freude schöner Götter Funken
der himm-

《アデライーデ》おもな箇所と比較表

小節/版	初版(0版)	初版(1)	第2版	第3版(1)	第3版(2)	第3版(3)	カット	クルシュワツ	目録	新全巻
4 標頭Aタイプ	Aタイプ	Aタイプ	Aタイプ	Aタイプ	Aタイプ	Aタイプ	カット	クルシュワツ	目録	新全巻
10	rf	rf	rf	rf	rf	rf	rf	rf	rf	CR
19	改訂Aタイプ	修正								
42	カットAタイプ	カットAタイプ			欠落					
48&53	fp	fp	fp	fp	fp	fp			fp	fp
142タイプミソク						(45-10)は別張り, このとき削除				
49.53装飾面なし	なし	なし	使用付点音符			削除	使用付点音符	使用付点音符	なし	なし
47左第3拍		stacc 修正								
48	右向き/カット	右向き/カット	右向き/カット	右向き/カット			左向き	左向き	左向き	左向き
97右	a-c1-m1-f1	f-c1-m1-f1	f-c1-m1-f1	a-c1-m1-f1			f-c1-m1-f1	f-c1-m1-f1	a-c1-m1-f1	f-c1-m1-f1
148/150	62	62	62	62	62	62	62	62	62	62
100label	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	付加

Y



《ヴァルトシュタインソナタ》表紙

①

②